

菖蒲前愛馬に懇願

菖蒲前は懸命に逃げましたが再び賊が追って来たので馬から降りて愛馬に、お前の腹の中に私とかくてほしいと頼みかけた。馬も納得したので馬の命を断つて腹の中にかくれさせた。賊の馬が崖下に死んでいるのを見て菖蒲前も死んだものと思つて去りました。水海道の滝のあたりといい、ここに馬頭観音(ばとうかんのん)がまつられている。



小倉山に住む

あやめのまえは、曾場山(そばやま)の山中に入り、無事に追っ手から逃れられました。
あやめのまえが逃れた所は、生れ古郷の京の小倉山にイッているしたので、小倉山と名づけました。庵を建て、髪をおろし、西妙と改めされ頼政、種若丸、鶴姫、愛馬と平いました。



洞窟で笛を吹く

(とうくつ)

あるとき西妙は死が近いことを予感^{よかん}して辞世^{じせい}の歌を詠まれました。「定めなきよき事に見のぞりて
人々に今から土の洞窟に、菩提の道に入ぞうれしき」
入って笛を吹くが、笛の音がしている間は決して中を見ないようにと言い付けられた。6日後に笛の音が止み
おとくなりました。元久元年(1204)8月27日のことです。



雨が降る

離れた所からでも、心を込めて拝
めば、そこだけ雨が降らすという
言い伝えが残っています。



農民が祈願する

小倉神社は、^{あまごい}雨乞の神としても

農民の信仰を集めました。



小倉大明神

その後、やめのまえは小倉大明神として
祭られました。また多くの家臣達は銘々に
墓をつくり、やがて後を追いました。

今でもやめのまえの墓を守るように家
臣の墓が並んでおります。

